



福岡市中小企業における脱炭素経営サポート事業
GHG排出量削減計画策定に係る伴走支援

アジェンダ

1. 会社概要

2. カーボンニュートラルに向けた取り組み計画

- 排出量計測結果
- 基準年度、目標年度、目標値の設定
- 2040年の取り組み内容
- 玄望園営業所の紹介
- 2050年までの取り組み内容

福岡倉庫株式会社



福岡倉庫株式会社

設立： 1948年 10月 18日

資本金： 1億円

売上高： 96.7億円（2022年12月）

従業員数：267名 （2024年 2月）

代表者： 代表取締役社長 富永太郎

本社： 福岡県福岡市東区多の津 2-9-8

■倉庫部

本社営業所／箱崎営業所／箱崎ふ頭ロジスティクスセンター
／中央営業所／古賀営業所／玄望園営業所（22年12月竣工）
志免営業所／小倉支店

■梱包輸送部

福岡営業所／佐世保営業所／岩国営業所／大阪支店／
国際営業課（大阪オフィス・東京オフィス）／
大阪支店／名古屋支店／山下ふ頭営業所／東京支店
※上海福岡国際貨物運輸代理有限公司（中国）

■陸運部

福岡営業所／大阪支店／名古屋支店
／東京支店／千葉営業所／高崎営業所

事業内容

- 倉庫業（普通・危険品・保税・農水省指定倉庫）
- 通関業 ■港湾運送事業
- 貨物自動車運送事業 ■貨物自動車利用運送事業
- 国内外引越梱包業 ■産業廃棄物収集運搬業
- 前各号に付帯する一切の事業

事業所所在地

福岡在籍事業所
倉庫部
通関グループ
陸運部
梱包部



アジェンダ

1. 会社概要

2. カーボンニュートラルに向けた取り組み計画

- 排出量計測結果
- 基準年度、目標年度、目標値の設定
- 2040年の取り組み内容
- 玄望園営業所の紹介
- 2050年までの取り組み内容

排出量計測結果

各営業所からの電気使用量によりScope2からの排出がほとんど

計測対象：倉庫部の拠点

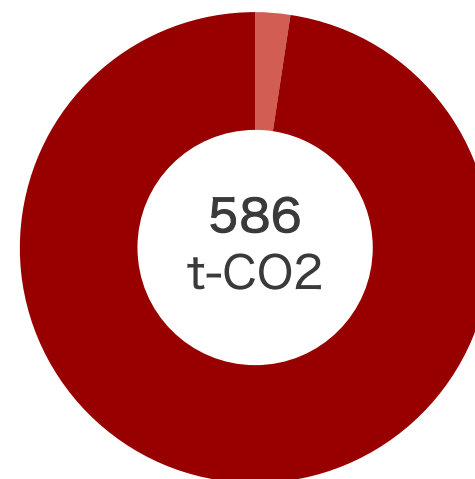
計測期間：2022年9月～2023年3月

測定範囲：スコープ1,2

計測ポイント

- Scope1はガソリンからの排出のため、EV導入を検討
- Scope2は電気の使用からの排出のため、契約している電力プランの再エネ化を検討

CO2総排出量



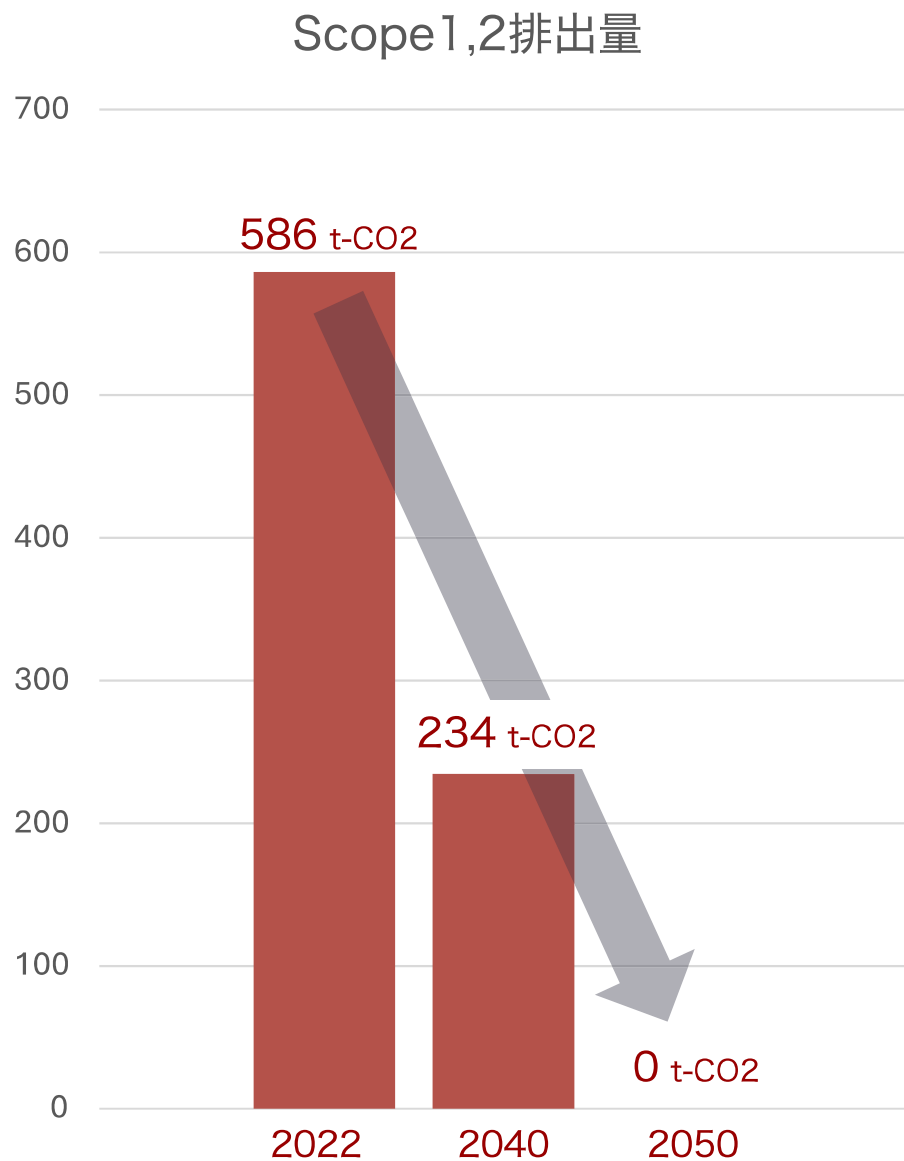
■ Scope1 ■ Scope2

内訳

- Scope1は14t-CO2の排出
- Scope2は572t-CO2の排出

基準年度、目標年度、目標値の設定

2040年度までに40%、2050年度までにカーボンニュートラルを目指す



基準年度

2022年度
586 t-CO₂

目標①

2040年度
234 t-CO₂ (40%削減)

目標②

2050年度
0 t-CO₂ (100%削減)

2040年の取り組み内容

2040年度までに排出量を40%減らす

電化

社用車をEVに変更

- 既存のガソリン車の車種と走行距離を調査し、費用対効果を策定
- 走行距離の長い費用対効果の出るものから順次変更



効率化

事務所の遮熱

- 最初に本社営業所を遮熱にし、本社営業所の影響をみて他営業所にも遮熱を導入

冷蔵設備の更新

- 箱崎営業所は対応済。順次他事務所も更新

空調の更新

- 空調の切替タイミングは10年とされているので、少し前に変更した営業所の空調も2030年あたりに最新のものに更新

再エネ化

事務所の再エネ

- 各営業所を省エネにしてコストを減らした分で、再エネプランに変更

太陽光発電

- 新倉庫への太陽光発電設備（玄望園営業所は導入済）

玄望園営業所の紹介

太陽光パネルを導入している、玄望園営業所をモデルに、他営業所にも再エネを拡大していく

玄望園営業所の取組み

太陽光パネル設置

- 太陽光パネル410W × 3,336枚、最大出力1,000kW
- 太陽光パネルで自家消費を行い再エネ化に繋げる
- 今後他の営業所にも展開予定



玄望園営業所に設置している太陽光パネル

オーバーハング方式*の設計

- 営業所ではオーバーハング方式で設計されている
- オーバーハング方式で設計されていることで、トラックの待機時間が短くなり、トラックの省エネにつながる

*オーバーハング方式とは、建築や工学の領域で使用される設計手法の一つで、建物の上階が下階よりも外側に広がるように設計されること



玄望園営業所外観

2050年までの取り組み内容

2050年度までにカーボンニュートラルを目指す

電化

社用車のEV化の後は、従業員用にEV充電器を設置

- 社用車をEV化し、走行距離の長い費用対効果の出るものから順次変更

効率化

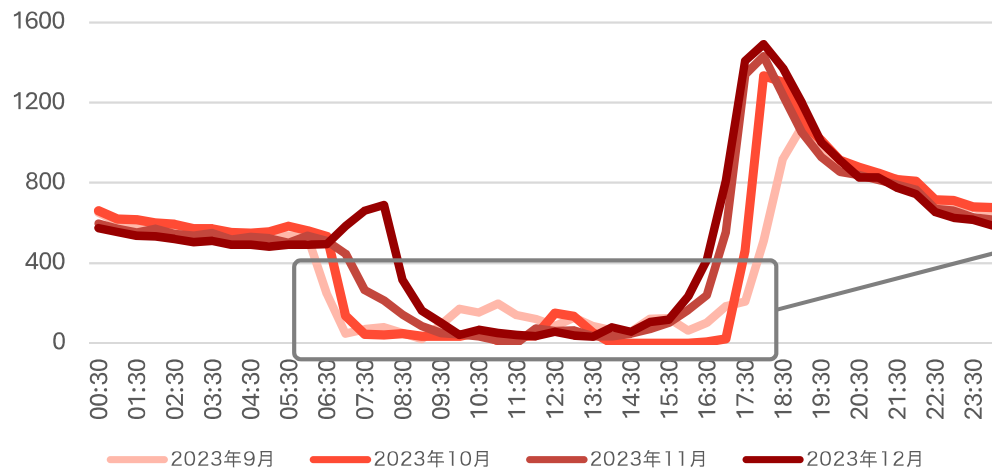
脱炭素倉庫作り、リースで販売

- まず玄望園営業所を脱炭素倉庫とし、CO2排出量0を目指す
- 排出量を0にしたら、リースとして販売

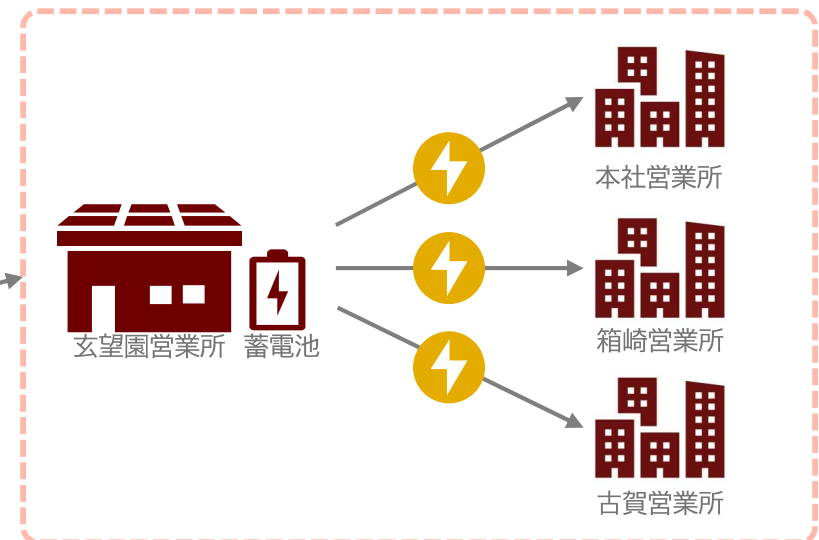
再エネ化

蓄電池を導入し、自家消費率を上げる

- 玄望園営業所に太陽光パネルを設置しており、昼の時間帯は電気が余っている状態
- 蓄電池を導入し、太陽光だけの発電で営業所が運営できるように変更
- 余った電気は他の営業所に送り活用する



玄望園営業所の電力使用量のグラフ



今後の取組み

まだ取り組めていない、下記項目を今後取り組んでいく

- ロードマップの作成
- 費用対効果の策定
- 脱炭素倉庫を作るために、やることの確認
- いつEVを導入するか、EV車の算定
- 蓄電池導入の際の補助金の確認